

21世纪大学日语专业系列教材



7

新编综合日语

教与学参考书

主 编 陈俊英

分册主编 杨 红 王国辉

审 订 [日]谷守正宽 陈多友



中国对外翻译出版有限公司

21 世纪大学日语专业系列教材

新编综合日语

教与学参考书

7

主 编	陈俊英
本册主编	杨红 王国辉
编 者	李国宁 王珏钰 程丽华
审 订	[日] 谷守正宽 陈多友

 中国对外翻译出版有限公司

• 北京 •

版权所有 侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

新编综合日语教与学参考书. 7 / 陈俊英主编; 杨红, 王国辉分册主编. — 北京: 中国宇航出版社, 2014. 9

21世纪大学日语专业系列教材

ISBN 978-7-5159-0791-8

I. ①新… II. ①陈… ②杨… ③王… III. ①日语—高等学校—教学参考资料 IV. ①H36

中国版本图书馆CIP数据核字(2014)第206716号

策划编辑 姜 军 赵 天 装帧设计 宇航数码
责任编辑 满新茹 责任校对 刘东雪

出 版 社 中国宇航出版社

社 址 北京市阜成路 8 号 邮 编 100830
(010) 68768548

网 址 www.caphbook.com

经 销 新华书店

发行部 (010) 68371900 (010) 88530478 (传真)
(010) 68768541 (010) 68767294 (传真)

零售店 读者服务部 北京宇航文苑
(010) 68371105 (010) 62529336

承 印 北京京华虎彩印刷有限公司

版 次 2014 年 9 月第 1 版 2014 年 9 月第 1 次印刷

规 格 787×1092 开 本 1/16

印 张 9.5 字 数 175 千字

书 号 ISBN 978-7-5159-0791-8

定 价 39.80 元

本书如有印装质量问题, 可与发行部联系调换

21世纪大学日语专业系列教材

主 编	陈俊英	(湛江师范学院)
副 主 编	杨 红	(湛江师范学院)
	王 磊	(河南师范大学)
	孙淑华	(青岛理工大学)
审 订	[日]谷守正宽	(日本甲南大学)
	陈多友	(广东外语外贸大学)

编写委员会 (以姓氏汉语拼音为序)

陈俊英	(湛江师范学院)
程国庆	(青岛大学)
洪伟民	(上海商学院)
司志武	(暨南大学)
孙淑华	(青岛理工大学)
王传礼	(韩山师范学院)
王 磊	(河南师范大学)
王玉芝	(河北师范大学)
徐永祥	(唐山师范学院)
于卫红	(内蒙古大学)
张继彤	(上海理工大学)
张金艳	(内蒙古师范大学)
张永平	(山东政法学院)
郑爱军	(青岛理工大学)

总序

随着全球化时代的到来和我国与日本合作、交流领域的不断扩大,社会对复合型、实用型日语专门人才的需求逐年增加。为适应这种需要,近年来,我国设置日语专业的大学也在迅速增加,根据中国日语教学研究会2011年公布的信息,全国已有466所大学设立了日语专业。

然而,从教学实践来看,适用于培养社会所需的复合型、实用型日语人才的教材却不多见。为此,部分普通大学日语专业骨干教师萌发了合作编写一套实用型日语教材的想法。经过前期精心筹划和准备,以2010年初在湛江师范学院举办的“大学日语专业教学暨实用型教材建设研讨会”为契机,正式启动了本系列教材的编写工作。

一、本系列教材编写依据、原则和使用对象

本系列教材以教育部《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》和《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》(以下简称教学大纲)为指导,并参考了《高校日语专业四级考试大纲》和《高校日语专业八级考试大纲》以及日本国际交流基金等编《日本語能力試験出題基準》《新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集N1, N2, N3》《新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集N4, N5》等相关日语资格考试文献资料。

本系列教材以“学生好学,教师好教,贴近生活,注重实用”为编写原则,旨在帮助学生锤炼日语基本功,激发学习兴趣,学会学习;培养综合素质、实践能力、社会文化理解能力和跨文化交际能力;培养取得日语能力考试,专业四、八级考试等国际、国内日语资格证书的能力。

本系列教材主要适用于大学日语专业学生。根据学习或取得日语资格证书的需要,零起点或有一定学习基础的日语爱好者也可以从中任意选用。

二、本系列教材编写中的技术处理

为达到本系列教材的编写初衷,在编写时做了如下技术层面的处理:

在语法层面上,根据教学大纲要求和取得日语资格证书需要,将语法按日语能力考试N5~N1和专业四、八级考试水平由低到高分1~7级,并分别编入相对应的各册。为此,第1~5册分别相当于日语能力考试N5~N1水平,而前4册又相当于专业四级考试水平;第6~7册继续锤炼日语基本功,提高实践能力,充实文化知识,相当于专业八级考试水平。

在内容层面上,对各册的选材范围、主题、难易梯度等进行了整体设计和安排。例如,第1~2册主要涉及日本日常生活常识、基本礼仪习惯和学习方法等话题;第3~4册主要涉及日本社会、文化、商务礼仪、环保等话题。

三、本系列教材的构成和使用

本系列教材涵盖日语专业4门必修课程,包括《新编综合日语》《新编日语听解》《新编日语会话》和《新编日语读解》。《新编综合日语》为系列教材的核心和主线,其余分册既是《新编综合日语》的补充、内伸外延,又分别承担不同的任务,各具特色。简言之,分则独立,合则系统。

本系列教材中的《新编综合日语》和《新编日语听解》各为7册,均配有教与学参考书,适用于1~7学期;《新编日语会话》为4册,适用于1~4学期;《新编日语读解》为4册,适用于3~6学期。

四、本系列教材的特点

1. 吸纳优秀教材所长,链接社会实际需求,重视学生综合素质和“即战力”的培养。
2. 引导学生学会学习,学会做人,学会做事,学会认知,提高人文素质。
3. 反映国际、国内日语资格证书考试要求和水平,把学习和获取考试证书相结合。
4. 提供立体化教学资源包:教学PPT、网络资源和互动博客等。

本系列日语教材的问世,是集体智慧和通力协作的结晶。有湛江师范学院、上海理工大学、青岛理工大学、上海商学院、河南师范大学等十几所大学日语教师、同学和日本外教的辛劳和汗水;有日本鸟取大学、新潟大学等几所大学日语教育专家以及几位媒体资深记者的鼎力相助;有北京大学、北京师范大学、北京外国语大学、广东外语外贸大学等诸位专家在百忙中的热情支持;有著名外资企业高管提供的宝贵素材和相关建议;同时还从现有多种优质教材中吸收了大量养分。

中国宇航出版社作为国家级品牌出版社,积极投身于我国外语教学事业,对本系列教材的出版给予了热情帮助和大力支持,并将其列为出版社“十二五”规划教材。在此,谨对以各种方式关心、帮助、支持本系列教材出版的国内外各位学者、专家、同仁和同学们一并表示深深的敬意和谢意。

由于编者水平有限,经验不足,加之时间仓促,本系列教材难免会有不少疏漏和不尽如人意之处,恳请各位专家、同仁和同学们多多提出宝贵意见。

《21世纪大学日语专业系列教材》编写委员会

2011年7月

前言

《新编综合日语教与学参考书》是《21世纪大学日语专业系列教材》主干教材《新编综合日语》配套教与学参考用书，共7册，分别与《新编综合日语》各册一一对应，它作为《新编综合日语》的辅助教材，是根据教者和学者双方的需要而编写的，适合教师教学和学生使用。

本册是《新编综合日语教与学参考书》第7册，每课包括【单词链接】【文化链接】【练习答案】【课文译文】4个模块。

【单词链接】列出了本课重点单词，配合详尽的例句进一步加以说明，并对部分近义词进行了辨析，便于使用者理解并掌握重要词汇的意义和使用方法。

【文化链接】列出了与课文内容相关的日本文化小知识，注重对作品背景的介绍及作品本身的解说，可使学生更容易地掌握课文内容，提高学生的人文素养。

【练习答案】是学生用书课后习题的参考答案，供学生对学习效果进行自我检测，提高知识运用能力。

【课文译文】是学生用书课文的汉语参考译文。

本册编写工作分工为：杨红、王国辉负责编撰策划、内容设计、统稿以及各课的“练习答案”和“课文译文”；岳喜凤、李国宁、王珏钰、李海爽、程丽华每人分别承担3课“单词链接”“文化链接”的编写及部分课文的校对工作。书稿完成后，主编陈俊英教授和日本甲南大学谷守正宽教授对所有书稿进行了精心审订和校对。

本书在编写过程中得到了湛江师范学院外国语学院陈俊英教授的悉心指导，得到了日语系同事的大力支持，作为一项专业实践活动，2011级日语专业全体同学参与了编写过程。中国宇航出版社的编辑和审读专家提出了不少宝贵的意见与建议，在此一并致以诚挚的感谢。

由于时间仓促、水平有限，难免存在一些不尽如人意之处，敬请各位专家、学者、同仁和同学们批评指正。

编者

2014年6月

目 录

7	第 1 課 論理で文章を読みつなぐ
14	第 2 課 ハイテク化と人間のゆくえ
22	第 3 課 現代の個人主義
31	第 4 課 ミロのヴィーナス
38	第 5 課 外来語と日本文化
46	第 6 課 翻訳とはどういうものか—私の学習体験談
57	第 7 課 「四本足のにわとり」考
65	第 8 課 任意の一点
75	第 9 課 不思議な魚
84	第 10 課 盲目と聾者
94	第 11 課 赤い繭
102	第 12 課 檸檬
115	第 13 課 城の崎にて
123	第 14 課 短歌鑑賞
131	第 15 課 竹取物語
135	付録 A 体に関する慣用句

总 序

随着全球化时代的到来和我国与日本合作、交流领域的不断扩大, 社会对复合型、实用型日语专门人才的需求逐年增加。为适应这种需要, 近年来, 我国设置日语专业的大学也在迅速增加, 根据中国日语教学研究会2011年公布的信息, 全国已有466所大学设立了日语专业。

然而, 从教学实践来看, 适用于培养社会所需的复合型、实用型日语人才的教材却不多见。为此, 部分普通大学日语专业骨干教师萌发了合作编写一套实用型日语教材的想法。经过前期精心筹划和准备, 以2010年初在湛江师范学院举办的“大学日语专业教学暨实用型教材建设研讨会”为契机, 正式启动了本系列教材的编写工作。

一、本系列教材编写依据、原则和使用对象

本系列教材以教育部《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》和《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》(以下简称教学大纲)为指导, 并参考了《高校日语专业四级考试大纲》和《高校日语专业八级考试大纲》以及日本国际交流基金等编《日本語能力試験出題基準》《新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集N1, N2, N3》《新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集N4, N5》等相关日语资格考试文献资料。

本系列教材以“学生好学, 教师好教, 贴近生活, 注重实用”为编写原则, 旨在帮助学生锤炼日语基本功, 激发学习兴趣, 学会学习; 培养综合素质、实践能力、社会文化理解能力和跨文化交际能力; 培养取得日语能力考试, 专业四、八级考试等国际、国内日语资格证书的能力。

本系列教材主要适用于大学日语专业学生。根据学习或取得日语资格证书的需要, 零起点或有一定学习基础的日语爱好者也可以从中任意选用。

二、本系列教材编写中的技术处理

为达到本系列教材的编写初衷, 在编写时做了如下技术层面的处理:

在语法层面上, 根据教学大纲要求和取得日语资格证书需要, 将语法按日语能力考试N5~N1和专业四、八级考试水平由低到高分1~7级, 并分别编入相对应的各册。为此, 第1~5册分别相当于日语能力考试N5~N1水平, 而前4册又相当于专业四级考试水平; 第6~7册继续锤炼日语基本功, 提高实践能力, 充实文化知识, 相当于专业八级考试水平。

在内容层面上,对各册的选材范围、主题、难易梯度等进行了整体设计和安排。例如,第1~2册主要涉及日本日常生活常识、基本礼仪习惯和学习方法等话题;第3~4册主要涉及日本社会、文化、商务礼仪、环保等话题。

三、本系列教材的构成和使用

本系列教材涵盖日语专业4门必修课程,包括《新编综合日语》《新编日语听解》《新编日语会话》和《新编日语读解》。《新编综合日语》为系列教材的核心和主线,其余分册既是《新编综合日语》的补充、内伸外延,又分别承担不同的任务,各具特色。简言之,分则独立,合则系统。

本系列教材中的《新编综合日语》和《新编日语听解》各为7册,均配有教与学参考书,适用于1~7学期;《新编日语会话》为4册,适用于1~4学期;《新编日语读解》为4册,适用于3~6学期。

四、本系列教材的特点

1. 吸纳优秀教材所长,链接社会实际需求,重视学生综合素质和“即战力”的培养。
2. 引导学生学会学习,学会做人,学会做事,学会认知,提高人文素质。
3. 反映国际、国内日语资格证书考试要求和水平,把学习和获取考试证书相结合。
4. 提供立体化教学资源包:教学PPT、网络资源和互动博客等。

本系列日语教材的问世,是集体智慧和通力协作的结晶。有湛江师范学院、上海理工大学、青岛理工大学、上海商学院、河南师范大学等十几所大学日语教师、同学和日本外教的辛劳和汗水;有日本鸟取大学、新潟大学等几所大学日语教育专家以及几位媒体资深记者的鼎力相助;有北京大学、北京师范大学、北京外国语大学、广东外语外贸大学等诸位专家在百忙中的热情支持;有著名外资企业高管提供的宝贵素材和相关建议;同时还从现有多种优质教材中吸收了大量养分。

中国宇航出版社作为国家级品牌出版社,积极投身于我国外语教学事业,对本系列教材的出版给予了热情帮助和大力支持,并将其列为出版社“十二五”规划教材。在此,谨对以各种方式关心、帮助、支持本系列教材出版的国内外各位学者、专家、同仁和同学们一并表示深深的敬意和谢意。

由于编者水平有限,经验不足,加之时间仓促,本系列教材难免会有不少疏漏和不尽如人意之处,恳请各位专家、同仁和同学们多多提出宝贵意见。

《21世纪大学日语专业系列教材》编写委员会

2011年7月

前 言

《新编综合日语教与学参考书》是《21世纪大学日语专业系列教材》主干教材《新编综合日语》配套教与学参考用书，共7册，分别与《新编综合日语》各册一一对应，它作为《新编综合日语》的辅助教材，是根据教者和学者双方的需要而编写的，适合教师教学和学生使用。

本册是《新编综合日语教与学参考书》第7册，每课包括【单词链接】【文化链接】【练习答案】【课文译文】4个模块。

【单词链接】列出了本课重点单词，配合详尽的例句进一步加以说明，并对部分近义词进行了辨析，便于使用者理解并掌握重要词汇的意义和使用方法。

【文化链接】列出了与课文内容相关的日本文化小知识，注重对作品背景的介绍及作品本身的解说，可使学生更容易地掌握课文内容，提高学生的人文素养。

【练习答案】是学生用书课后习题的参考答案，供学生对学习效果进行自我检测，提高知识运用能力。

【课文译文】是学生用书课文的汉语参考译文。

本册编写工作分工为：杨红、王国辉负责编撰策划、内容设计、统稿以及各课的“练习答案”和“课文译文”；岳喜凤、李国宁、王珏钰、李海爽、程丽华每人分别承担3课“单词链接”“文化链接”的编写及部分课文的校对工作。书稿完成后，主编陈俊英教授和日本甲南大学谷守正宽教授对所有书稿进行了精心审订和校对。

本书在编写过程中得到了湛江师范学院外国语学院陈俊英教授的悉心指导，得到了日语系同事的大力支持，作为一项专业实践活动，2011级日语专业全体同学参与了编写过程。中国宇航出版社的编辑和审读专家提出了不少宝贵的意见与建议，在此一并致以诚挚的感谢。

由于时间仓促、水平有限，难免存在一些不尽如人意之处，敬请各位专家、学者、同仁和同学们批评指正。

编者

2014年6月

目 录

7	第1課 論理で文章を読みつなぐ
14	第2課 ハイテク化と人間のゆくえ
22	第3課 現代の個人主義
31	第4課 ミロのヴィーナス
38	第5課 外来語と日本文化
46	第6課 翻訳とはどういうものか—私の学習体験談
57	第7課 「四本足のにわとり」考
65	第8課 任意の一点
75	第9課 不思議な魚
84	第10課 盲目と聾者
94	第11課 赤い繭
102	第12課 檸檬
115	第13課 城の崎にて
123	第14課 短歌鑑賞
131	第15課 竹取物語
135	付録A 体に関する慣用句

第1課 論理で文章を読みつなぐ

【単語链接】

1. 「論理」と「理論」の違い

(1) 「論理」とは、与えられた条件から正しい結論を得る考え方の筋道、現象を合理的・統一的に解釈する上で認められる因果関係。

「論理的」とは、先ず論が有りそれを正当化するための理が付いて回ること。

(2) 「理論」とは、個々の現象に適用し得るものとして組み立てられた、普遍的かつ体系的な説明・概念・知識の総体。

「理論的」とは、先に理屈ありきでそれを論ずること。

【区別】

要するに、論理的は想定推定などの未証明事象に対して実在する理を充てる事である。それに対して、理論的は事実現実などの既証明事象に対して論ずる様な事である。

従って不確定なものに対して真偽を言う場合には論理的に正しいとか否かと表現する。逆にすでに証明・確定したものに対しては「理論による」とは言うが、形容詞化して理論的とは余り使わない。

2. 「読みつなぐ」

「読みつなぐ」とは、中国語の「通读」という意味である。「つなぐ」は、本文では、接尾語であり、「長く、続くようにする」という意味である。「食いつなぐ」。

3. 「～立て」

「～立て」は、接尾語で、形容詞の語幹および名詞または動詞の連用形などにつけて、その意味を強め、またはその事をとりたてて示そうとする場合に用いる語。「道具立て」「心立て」「忠義立て」「隠し立て」。

4. 「同士」と「同志」の違い

(1) 「志」とは、心に決めて目指していること。また、何になろう、何をしよう心に決めること。「志を立てる」「志を曲げる」「事志と違う」「志を同じくする」「同志」とは、主義・主張を同じくすること。また、そういう仲間。同志志の人。「同志を募る」「同志愛」。

(2) 「士」とは、男子。特に、学問・道徳を修めた男子についていう。互いにある共通の関係にある人。名詞の下に付いて、接尾語的にも用いる。「気の合った同士」「好いた同士」「女同士」。

【文化链接】

< 链接 1 >

抽象度の高い文章を読む

抽象度の高い文章に慣れる

この文章では、いきなり「もの」「こと」といった抽象的な言い回しが登場して、動揺したかもしれない。ここで、ものとは何か、こととは何かと聞かないでほしい。はっきり定義できないから、もの、ことというしかないのだ。

問題文を読んだら最初から順番に理解できるものと、勘違いしている人がいる。そもそも、簡単には理解できない文章だから、出題者が問題文として選定したのであって、普通に読んで誰もが理解できる文章なら、入試問題にはならないのである。

なぜ、理解できないのか？

- 1 入試問題は長い文章のどこか一部分を切り取ったもので、いきなり途中から始まるから、最初から読んでも何が書いてあるのか、しばらくは理解できない。
- 2 レトリック（修辞法）—入試問題に選定される問題文はほとんどレトリックを多用した箇所である。
- 3 抽象度の高い文章が多い。

難関大学の問題文はこの3つの要素のすべてか、このうちの1つか2つを持っていると考えていい。ということは、こういった大学を突破するには、この3つの要素に対処する訓練をすればいいわけだ。

わたしたちは抽象度の高い、レトリックを多用した文章を読み慣れるべきだ。あとは問題練習によって慣れる必要がある。頭で分かっても、実際未知の文章に

あたると、なかなかうまくはいかないものである。その上で、これらの要素に対処すべきである。

問題文はいきなり途中から始まるから、最初から理解できるとは限らない。では、どうすればいいのか。分からないまま読んでいけばいいのである。論理的な文章は、筆者の主張したいことを必ずどこかで繰り返す。なぜなら、論理的であるということは、同じことの形を変えた繰り返しにすぎないからだ。

< 链接 2 >

長い文章の読解法

文章を人間の身体にたとえてみよう。

人間の身体には、骨がある。頭蓋骨もあれば、背骨もある。手や足の骨もあれば、指先などの小骨もある。

だが、骨だけの身体は骸骨であって、生きた人間とは言えない。骨の周りには豊かな肉がある。そして、人間は人目を気にする限り、裸ではいられない。首飾り、場合によっては化粧を施す。

文章も同じだ。要約文は骨だけの文で、骸骨である。

どれだけすばらしい文章でも、私たちは要約文を読んで感動することはない。なぜなら、それは骸骨だからだ。

私たちが「あの人はきれいだ」と思うとき、その人の骸骨を指して言っているわけではない。骨の上の豊かな肉体であり、ファッションであり、それらすべてをひっくるめてきれいだと感じるのである。

ならば、論理的な文章とは、骨格がしっかりとしているものであり、人を惹きつけるのは、文章の肉であり、ファッションにあたる部分なのだ。

骨にもいろいろある。頭蓋骨は1つで、これは主旨にあたるものだろう。背骨も一本、これがその筋道、だが、そのほかにも手足の骨など、さまざまな骨があり、そのそれぞれに肉がついている。

文章にも、手足の骨のように、大切な箇所はいくつもあり、そのそれぞれに具体例やエピソードが付随している。

だが、頭蓋骨や背骨は1つであって、手の肉の方が背骨についた骨よりも多いということはある得ない。

小論文などで、論理的な文章を書こうと思えば、まず骨をしっかりと組み立て